

入試情報

入試日	願書提出	合格発表	内申点計算方法
■前期特色選抜: 2/2(火)	1/21(木)~25(月)	3/15(火)	【中1】9教科×5段階=45点満点 【中2】9教科×5段階=45点満点 【中3】9教科×5段階×2=90点満点 ⇒計180点満点
■後期一般選抜: 3/8(火)・9(水)	2/12(金)~17(金)		

教育のプロ
トライさん



傾向

■前期特色選抜

総募集定員の50%以内で学校ごとに異なる割合で定員を定める。面接、小論文、実技検査など学校独自の検査で合否を判定する。

■後期一般選抜

1日目に英語・国語・理科、2日目に数学・社会の学力検査を実施する。学力検査点（5教科250点満点）と内申点で合否を判定する。学力検査点と内申点それぞれの得点で順位をつけ、両方の順位が募集人員内にあるものから合格者を選ぶ。合格者が募集人員に満たない場合は、各高校で定めた選抜基準で残りの合格者を決定する。難関校については倍率の大きな変化は見られず、今年も同等水準で推移すると予測される。一方中堅校は学校間で差があるものの、倍率上昇の可能性はある。比較的同じ学力レベル間での競争となるため、本番での得点力が合格へのカギとなる。

科目別対策

英語

リスニング、長文読解、語彙・文法問題、英作文で構成される。大問1のリスニングと大問4の長文読解は、学校によって指定されたA問題またはB問題を解く。問題量が多いので、スピーディーに解く必要がある。長文読解が配点全体の約7割を占めるため、十分な対策が必要。読解演習を繰り返して速く正確に読めるようにしよう。大問4はスピーチの読解で、英作文も出題される。英作文は配点が高いので、基本的な例文を覚え、一部を書き換えて英作文を書く練習をすること。日本語を英文に直す問題は毎年出題される。

数学

大問6~7問で構成。大問2の小問集合、大問5の関数、大問6の図形は、学校によって指定されたA問題またはB問題を解く。小問集合で半分近い配点となるので、得点源にしよう。時間内にミスなく解けるように何度も練習すること。図形の証明問題は頻出単元なので、少し難易度が高いものを繰り返し練習すること。関数の問題は難易度が高く、記述問題を解くには、正確な知識が必要となる。昨年はグラフと図形の融合問題が出題された。「規則性」と「空間図形」は教科書問題を繰り返し練習して対策しよう。

国語

大問6問で構成。記述問題が多いことが特徴。古文でも内容記述が出題される。大問3の説明的文章では、複数の資料をもとにして記述するので、読み解く力や情報を整理する力が求められる。過去問を繰り返し解き、解答方法を身につけること。全体的に基本レベルの問題が多いので、漢字や慣用句、ことわざ等は教科書レベルの問題を復習すること。大問1の漢字や慣用句と、大問2の会話・発表の問題、資料の使い方の問題を早く解いて、文章読解や作文に時間を使えるようにしよう。

理科

各分野全ての問題がバランスよく出題される。物理・化学・生物・地学から1問ずつの計4問の構成。実験結果から考察を書く問題やグラフ問題が頻出。用語や結果を覚えているだけでは対応できないので、実験や観察に関わる単元は特に重点的に対策することが必要。語句を丸暗記するのではなく、過程や根拠をしっかりと理解しながら学習を進めること。昨年度は試験管中の水のpHの値が光合成によって変化する理由を書く問題、台車を引き上げたときの仕事の原理についての問題が出題された。

社会

大問6問で構成。1・2は地理、大問3・4は歴史、大問5・6は公民。記述問題が出題される。資料を読み取り、文末と文字数の条件に沿って記述する問題である。そのため、自分の意見を簡潔にまとめる練習が必要である。統計資料や地図を使った問題も出ているので資料を読みとる力も必要だ。年代や用語の暗記だけでなく、日頃から教科書・資料集の図や資料に目を通しておくこと。時事問題対策として、ニュースや新聞をよく読み、関心を持っておくことも大切である。また、その関心に対して自分の意見を述べることができると良い。